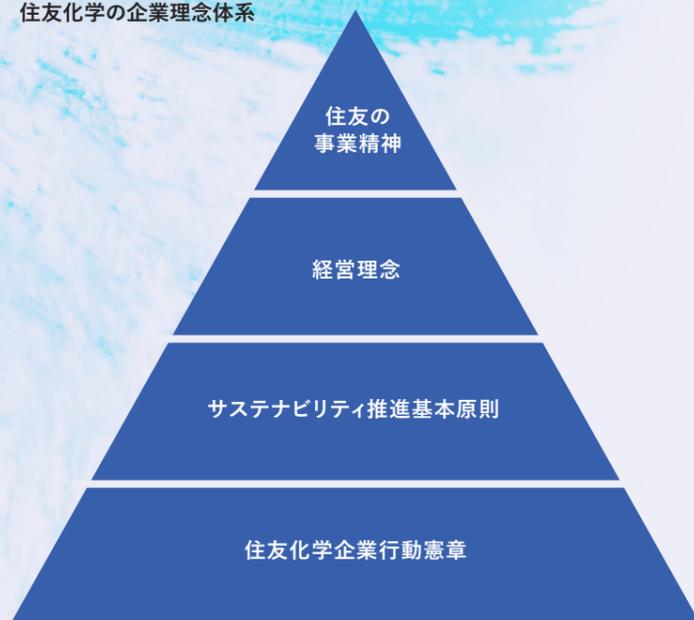


住友化学の企業理念

企業理念

住友化学は、約400年の歴史を持つ「住友家」の事業を起源とし、現在もその事業経営の根本精神を継承しています。そして、その住友の事業精神を踏まえ、住友化学としての基本精神や使命、価値観を整理し、「経営理念」として明文化しています。

住友化学の企業理念体系



住友の事業精神

「自利利他 公私一如」

住友の事業は、住友自身を利するとともに、国家を利し、かつ社会を利するものでなければならない

営業の要旨

- 第1条 わが住友の営業は信用を重んじ確実を旨とし、もってその鞏固隆盛を期すべし。
- 第2条 わが住友の営業は時勢の変遷、理財の得失を計り、弛張興廃することあるべしといえども、いやしくも浮利にはしり軽進すべからず。

サステナビリティ推進基本原則

- 原則1 経済価値と社会価値の創出（「自利利他 公私一如」の推進）
- 原則2 国際社会の重要課題解決への貢献
- 原則3 関係機関との連携
- 原則4 ステークホルダーとの協働
- 原則5 トップコミットメントと全員の参画
- 原則6 ガバナンス

住友化学の経営理念

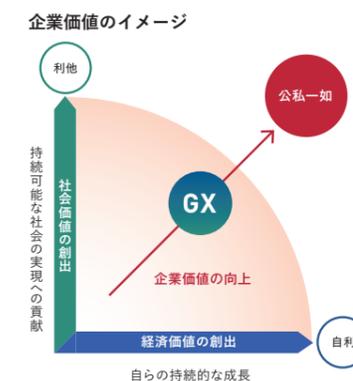
1. 技術を基盤とした新しい価値の創造に常に挑戦します。
2. 事業活動を通じて人類社会の発展に貢献します。
3. 活力にあふれ社会から信頼される企業風土を醸成します。

住友化学企業行動憲章

1. 住友の事業精神を尊重し、世の中から尊敬される「よき社会人」として行動する。
2. 国内外の法令を守り、会社の規則にしたがって行動する。
3. 社会の発展に幅広く貢献する、有用で安全性に配慮した技術や製品を開発、提供する。
4. 無事故、無災害、加えて、地球環境の保全を目指し、自主的、積極的な取組みを行う。
5. 公正かつ自由な競争に基づく取引を行う。
6. 健康で明るい職場づくりを心がける。
7. 一人ひとりが、それぞれの分野において、高度な技術と知識をもったプロフェッショナルになるよう、研鑽していく。
8. 株主、取引先、地域社会の方々等、企業をとりまくさまざまな関係者とのコミュニケーションを積極的に行う。
9. 国際社会の一員として、世界各地の文化・慣習を尊重し、その地域の発展に貢献する。
10. 以上の行動指針に基づく事業活動を通じ、会社の健全な発展に努める。

企業理念に基づいた住友化学の企業価値向上の考え方

住友の事業精神を表す「自利利他 公私一如」は、「住友の事業は自社の発展のみではなく、社会にも貢献するものでなければならない」という意味で、当社グループが創業から大切にしてきた考え方であり、Creating Shared Valueにも通じるものです。GXの観点を加えて絶えず事業を変革しながら、当社グループの持続的な成長（自利）と、社会への価値創出（利他）を実現します。これにより、経済価値と社会価値を一体的に創出（公私一如）し、企業価値の向上を目指します。



「自利利他 公私一如」の実践

源流

事例1

銅製錬事業に伴う煙害問題
▶ 硫酸・肥料製造事業

1915年 住友肥料製造所 営業開始



住友肥料製造所

銅鉱石として利用される硫化鉱を焙焼する際に発生する亜硫酸ガスから硫酸を製造し、硫酸から過燐酸石灰(肥料)を製造した。

社会課題

銅製錬事業に伴う煙害問題
住友グループによる別子銅山での銅製錬事業では、亜硫酸ガスを排出し、近隣の村々の農作物に被害を与えていた。

価値創出

- | 社会価値 | 経済価値 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 硫化鉱に含まれる硫黄分を減少させることで製錬時の亜硫酸ガス排出を削減し、煙害解決の一助に ● 安価な肥料を国内および海外へ販売することで農業の発展へ貢献 | <ul style="list-style-type: none"> ● 操業初年度こそ赤字も、1916年には38,000円、1917年には220,000円の利益を創出 |

成長

事例2

マラリア感染症問題
▶ 感染症対策資材事業

1995年 オリセツ® ネット販売開始



オリセツ® ネット

合成樹脂に防虫剤を練り込み、徐々に薬剤を表面に染み出させることでマラリア媒介蚊を防除する長期残効性防虫蚊帳「オリセツ® ネット」を開発・販売。WHOの認定を得た後はタンザニアの蚊帳メーカーに技術が無償提供し、現地での生産体制確立と新工場稼働に協力した。

社会課題

マラリア感染症問題
アフリカではマラリアが流行しており、貧困や財政難により十分な対策が取れず、マラリアに罹患することで就業や教育の機会を失い、貧困から脱却できないという悪循環が存在した。

価値創出

- | 社会価値 | 経済価値 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 累計約27億人・年を感染症から救う ● 現地生産体制整備による雇用機会の創出および女性の就業環境整備 ● 収益の一部で教育支援を行うことによる教育環境の整備 | <ul style="list-style-type: none"> ● オリセツ® ネット等の長期残効性防虫蚊帳を、アフリカを中心に累計約3億張販売 |

展望

事例3

気候変動およびプラスチック廃棄物問題
▶ 炭素資源循環事業

2020年代後半 革新的ケミカルリサイクル技術の社会実装



CO₂からメタノールを製造するパイロット設備

他社や行政などの外部機関と連携し、化石資源の代替として廃プラスチックや二酸化炭素を原料に化学品を製造するケミカルリサイクル技術の社会実装を目指す。

→ 資源循環への貢献

社会課題

気候変動およびプラスチック廃棄物問題
化石資源を原料としたプラスチック製品については、製造から使用後の処理までの過程で排出される温室効果ガス(GHG)の削減やその再資源化が、世界的に喫緊の課題となっている。

価値創出

- | 社会価値 | 経済価値 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 化石資源使用量や廃プラスチック焼却時に発生するGHG排出量を削減 ● 限られた資源の有効利用、および気候変動をはじめとした地球環境悪化の防止に貢献 | <ul style="list-style-type: none"> ● (例)エタノールtoプロピレン技術を全世界生産能力2億トン/年*1の1%に社会実装 → 貢献価値は400億円/年*2以上 *1 Chemical Market Analyticsのデータを基に2030年時点の能力を当社推定 *2 CO₂削減貢献量400万トン×炭素価格10,000円 |